

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

1学年で『担任ローテーション week』を実施！

1学年では6/17（月）～21（金）の1週間を「担任ローテーション week」と題し、朝と帰りのSHRを別クラスの担任が担当しました。昨年度に視察した横浜創英中高では学年担任制を取り入れ、学年の先生全員で生徒全員を担当する意識をもっているそうです。このやり方のメリットは、相談事などがあつたときに話しやすい先生を選んで相談しやすくなる点にもあります。本校では現状固定担任制ですが、**多くの先生方と関わり、話しかけやすい環境を整えるという目的**で今回担任ローテーションを行ってみました。今回の反省や改善点を活かし今年度中に何度か試してみようと計画しています。以下に先生方、生徒たちの感想を載せます。（1学年主任 高田 慧）

1. 担任団の感想

毎日違うクラスへ行くことで、学級運営で見直すべき点や、**自分のクラスの良さを改めて気付くことができました。**生徒にとってだけでなく私も毎日新鮮な気持ちでHR運営ができ、とてもいい体験となりました。（1-1担任 原澤 正樹）



私は1年生の授業がないので日々緊張しましたが、**元気に挨拶**をしてくれてとても安心しました。挨拶は大切ですね。元気に、目を見て、笑顔で、自分も改めて心掛けようと思いました。ありがとうございました。（1-2担任 中野 光士）

生徒にとっても気分転換になってくれればいいなと感じました。担任をしていると自分のクラスに集中してしまうので**違った視点をもつ必要がある**と思います。これからは学年全体に関わっていききたいですね。（1-4担任 根本 健太郎）

生徒と1つでも会話が増えるように毎日「謎解き」を作って朝のSHRで出題し、帰りのSHRで解説しました。解いてくれた生徒が多くよかったと思います。これを機に話しかけてくれると嬉しいです！（1-3担任 横島 大樹）

私は学年の半分程の人数の生徒としか授業がないので、色々な生徒の表情を見ることができたので新鮮でした。**クラスによって少しずつ雰囲気が違うのも感じ取れました**とても緊張しました・・・（1-5担任 川浦 篤）



2. 生徒の感想

SAHの取り組みで担任がシャッフルされたが、積極的に先生に質問したりするのは結構難しかったと思いました。しかし、**自分でよく考えてから行動することが出来た**と思うので、**非認知能力の向上**に繋がったと感じました。（1-3 柳澤 那菜）

普通の授業では会わない先生と接することができて嬉しかったです。1日だけだと、朝と帰りのSHRのみで質問や会話をする時間があまりないので、**一週間交代などもう少し長いタームでまた実施して欲しい**です。（1-4 町田 和子）

予告無しに始まったのでみんな驚いていたが、**新鮮な気持ちで朝の時間を過ごせた**と思うので、**まだやって欲しい**です。これを機に他のクラスの先生ともコミュニケーションがとれるようになるのとより良いと思います。（1-5 河野 栞）

★教頭より★

今回は1回目でしたので、お互いに戸惑ったようですが、また、2学期に何回か行い、互いに慣れてくると『相当なメリット』が出てくると思います！職員も『自分のクラスの垣根』を超えて多くの生徒と積極的な交流ができます。また、学年全職員で学年全生徒をカバーすることも可能です。従来の担任の先生が気づかないことを多くの職員が目をもってすれば、生徒のささいな変化に気づく可能性が増えるはず！他の先生方の有効なクラス運営を学びやすくなります！生徒も『特定の専門性のある先生方』や『なんとなく話しやすい先生方』を選択することがスムーズとなるでしょう！来年には修学旅行もありますから、さらに一体感のある学年集団として、生徒ひとりひとりが居心地のよい安心感をもって過ごせることにつながるでしょう！次回は楽しみです！ 教頭 星野 亨

★校長より★

担任ローテーション制は「生徒が教員との関係を広げ、様々な教員との関わりの中で幅広い考えを持てるようにする」ことを目的としており、現在いろいろな学校でその試みが行われている方法です。また、先生にとっても「生徒の良さや課題を複数の教員で見いだすことができる。」というメリットがあります。いずれにせよ、生徒の皆さんがいろいろな先生との関わりを持ってもらうことにより、達成できるものです。生徒の皆さん、学校生活の中で、いろいろな先生に話しかけてみてください。最初は「おはようございます」、「こんにちは」からで良いです。いろいろな先生との会話から思わぬ視野の広がりも生まれることもあります。ぜひ、挑戦してみてください。 校長 原 拓史